

福島潟自然情報

レンジャー真ちゃんの観察日記

最新情報

今年も来ました
オオヒシクイ第一陣!
9/29に100羽以上が到着。



十月に入り、福島潟では、すっかり秋が深まってきました。涼しい風が吹き、鳥や虫の音が聞こえるこの時期は、散歩するには最適な季節です。自然学習園の水際を歩いていると、福島潟で冬を過ごすためにやって来たカモたちが水面に浮かんでいるのが目に入ります。また、足元に目をやると、タデ科の植物、イヌタデが、私の目をひきました。決して派手ではないけれど、穂のように見える、たくさんの小さな淡い赤紫の花を咲かせています。(写真では色を見ていただけないのが残念です。)

手にとって触ってみると、赤紫の花のように見える部分の一部が、すでにかたくなっているのがわかります。花が終わって果実ができていくけれど、花びらのような赤紫の片が、そのまま果実を覆っているのです。この赤紫の小さな果実が、米粒のようなので、昔の子供たちは、イヌタデを「赤まんま」と呼び、ままごと遊びに使っていたようです。

イヌタデは大きくても高さ五十センチ位です。それ以上大きいオオイヌタデも、自然学習園ではよく見られます。タデ科の植物には、葉の付け根のあたりが、さやのようなもので包まれているものや、茎がとげとげで覆われているものもあり、いろいろなタデの仲間を探してみるとおもしろいでしょう。

(ビュウ福島潟レンジャー小坂)

福島潟干拓史2

丈右衛門の開発地

幕府は新田として開発する面積を五〇七町歩(約五〇三ヘクタール)と算定し、そのうち二〇四町歩を入会権を持つ潟周辺の村々に開発を任せ、残りの三〇三町歩の草生地と水面を丈右衛門の開発地としました。入会権は開発の容易な土地でしたが、丈右衛門の開発予定地の多くは水面の多い土地でした。そのため丈右衛門は、開発の成果を上げようとして、村請けに指定された土地を相場より高く買おうとしましたが、周辺村々との対立を深め、丈右衛門の資金繰りを悪化させることになりました。

また、潟の開発は流れ込む水量を減らし新井郷川からの排水を促進することとし、太田川・新発田川・加治川の瀬替え工事を宝暦六(一七五六)年から開始しました。

丈右衛門の河川改修工事と用排水路



文化15年に建立された丈右衛門供養塔
前新田延壽庵

建設によって開発された土地は、丈右衛門請といわれています。その開発面積は、水田一九町六反余(一、〇九七石余)、畑二八町五反余(二、三六石余)で、合計すると一四八町二反余(一、三三三石余)の広大なものでしたが、実際にはヨシ・マコモなどが生えている土地が四〇町歩以上あり、水面のままの土地も八町歩以上残っていました。

福島潟開発に着手して一五年後の明和七(一七七〇)年十一月、丈右衛門は耕地八九町歩(約八八ヘクタール)を完成させたまま、四、七〇〇両の借金を残して病死しました。翌年幕府は、養子八十八の開発願いを許可せず、開発地をすべて没収しました。その後開発権は転々と移動しましたが、寛政二(一七九〇)年市島家をはじめとする水原十三人衆に潟開発が引き継がれました。

(郷土史研究家 霧間)

イヌタデ (赤まんま)

市民の声

VOICE みんなの声

VOICE



豊かな感性に満たされた、喫茶「さか」
新しいコミュニケーション
が始まっています。」

石黒 有子さん
Ishiguro Tomoko
(58歳)
白新町3丁目

普通の民家を少し改造して始めたコーヒー喫茶。陶芸品、民芸品などを生かし、日本人のこころを大切にしていきたいと思います。そんなところが、思いもかけず、喫茶「さか」を訪れる方々の喜びにもつながっています。

自由な声をお寄せください

投稿は、郵送(手紙・はがき)、来庁などの方法でもかまいません。郵送の場合は、住所、氏名、年齢、電話番号をお書きください。お寄せいただいた原稿は、紙面の都合などで、内容を変えずに一部省略・変更することがあります。ご投稿いただいた方には、粗品を進呈します。

※締め切り 毎月20日

「コーヒー喫茶「さか」は、平成十年六月六日、自宅を少し改造して開店。主人が他界したこともあって、自宅にいながら自活できることを考えていました。そんなとき、ひよいと浮かんできたのがコーヒー喫茶。実は新潟のデパートに勤めていたころ、コーヒーっておいしい、いつも感じさせてくれる店がありました。そんな心地好い体験が新しい人生をスタートさせてくれました。

開店して二年余りが過ぎ、市外からも多くの方が訪れてくれます。畳、座卓、木枠のガラス戸、ガラス戸越しに見える小さな庭が、と皆さんが口をそろえたようにいいですね。つましい店構えと精神的なゆとり感が好評なのですが、特別にネライがあった訳ではなく、少し戸惑っています。私のそんな戸惑いをよそに、常連さんたちのフランス語教室になったり、琴の発表会の会場になったりして、今まで、豊栄にはなかった、新しいコミュニケーションの輪が広がっています。こうした動きは、できるだけ応援していきたいと思っています。

学校通信

木崎中学校 発

完全燃焼～体育大会～



渡辺 圭介さん
中学3年生

「これで閉会……」と僕の危なげな開会宣言で体育大会は始まりました。今年も、大雨で三日間も順延し、九月十三日に行いました。毎年恒例になっていた水抜き作業でもみんな文句一つ言わずやっているのを見て、やっぱり僕も暗くなっている場合じゃないかと思ひ、今年も死ぬまでやるぞ!みたいな気持ちになりました。多分全校生徒はそれ以上の気持ちだったらしく応援合戦は練習以上に声を張り上げ、また、二回踊ったソーラン節にも疲れを忘れさせるエネルギーがあったようです。

今年も愛広苑の方々からおいでいただき審査もしていただきました。平日にもかかわらず保護者の方も大勢来ていました。

「四軍激突火花を散らせ」のスローガンどおりの熱い体育祭でした。